

良い予防接種制度

「VPDを知って、子どもを守ろう。」の会代表
日本赤十字社医療センター小児科顧問
菌部友良(そのべともよし)

予防接種の目的とは

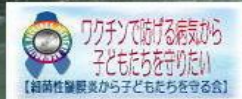
- 子ども、その他の国民の命と健康をVPD(ワクチンで防げる病気)から守ることで
- 現在の進んだ医学でも、VPDに罹ってしまうと、良い根本的な治療法はありません
- 不治の病といわれた小児癌でも約80%は治る時代に、今も多くの子どもがVPDによって命と健康を損ねています
- これほどもったいないものではなく、社会による虐待(ネグレクト)として考えるべきです



日本の子どもは、このように“保護柵のない公園”で遊んでいるようなものです

もしヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンが欧米と3年遅れで導入されて、定期接種になっていれば、1万人以上の子どもが、一番かかりたくない病気の細菌性髄膜炎にかからずに済みました

写真提供：細菌性髄膜炎から子供を守る会：田中代表



どうしてこのようなことが 起こるのでしょうか

- ワクチンを接種しなかった保護者の責任ではありません
- ワクチンがあっても、その必要性の啓発がなければ、麻疹のように多くの被害が出ます
- 任意接種ワクチンの啓発はなく、また接種したくても費用が高いため接種率は低いのです
- 接種したくても国内にワクチンがなければ接種できません

良い予防接種制度とは

- VPDの被害を最大限に減らすことが目的で、良いワクチンを早期に取りそろえて、ワクチン接種率を最大限に高める方策を取りそろえることです
- このことが日本で行われてこなかったことには、複雑で多くの要素がありますので、短時間で説明することは難しいことです
- 今回は他の方が触れない点も述べます

予防接種制度改革の根本

- 国の責任者や各党と国会議員の方々などが、国民を守ることが大切だと再認識して、危機管理体制の見直しをすることです
- 予防接種制度はこれの一環で、基本的な人権を守ることですので、超党派で、ぶれのない長期の戦略を立てる必要があります
- 日本版ACIPは、米国の形だけをまねるのではなく、この戦略に沿った実効性のあるものにすべきです

具体的な予防接種制度の あるべき姿

- 多くの先進国が実施しているワクチンを、国が無料の定期接種とするべきです
- これにより経済的な格差無く接種でき、地方自治体でも啓発を積極的に行うことが可能です
- 費用対効果だけでなく、次世代育成、国民の命と健康を守る視点で制度を決めます
- 法律の目的に沿って関連法令を整備して、予防接種を受けやすい環境を整えます

「VPDを知って、子どもを守ろう。」の会

- 2008年設立、会員数410名で主に小児科医
- 日本において情報が少ないVPDの被害(真実)、ワクチンの必要性和安全性、外国との違いなどをホームページで、わかりやすく説明
- ワクチンスケジュールも、医学的な必要性を第一に考えて、提案しています
- 多い月は7万人の方がHPを訪れていて、いかに皆が子どもの健康に関心を持ち、正しい情報に飢えていたかが分かります
- インターネットで「VPD」と検索してください

日本においては、副作用(反応)問題 が大きく予防接種に影響

- 副作用問題を、現在の科学の目で正しくとらえる必要があります
- まず、日本では副作用という言葉が世界と違って使用されていることが問題です
- 接種後に起こった“良くないこと”を世界では有害事象といい、「真の副作用」と「偶発的な紛れ込みの事故」の両者が含まれますが、日本ではすべてが真の副作用と誤解されます
- 厚労省副作用報告書も有害事象報告書です

真の副作用というための条件

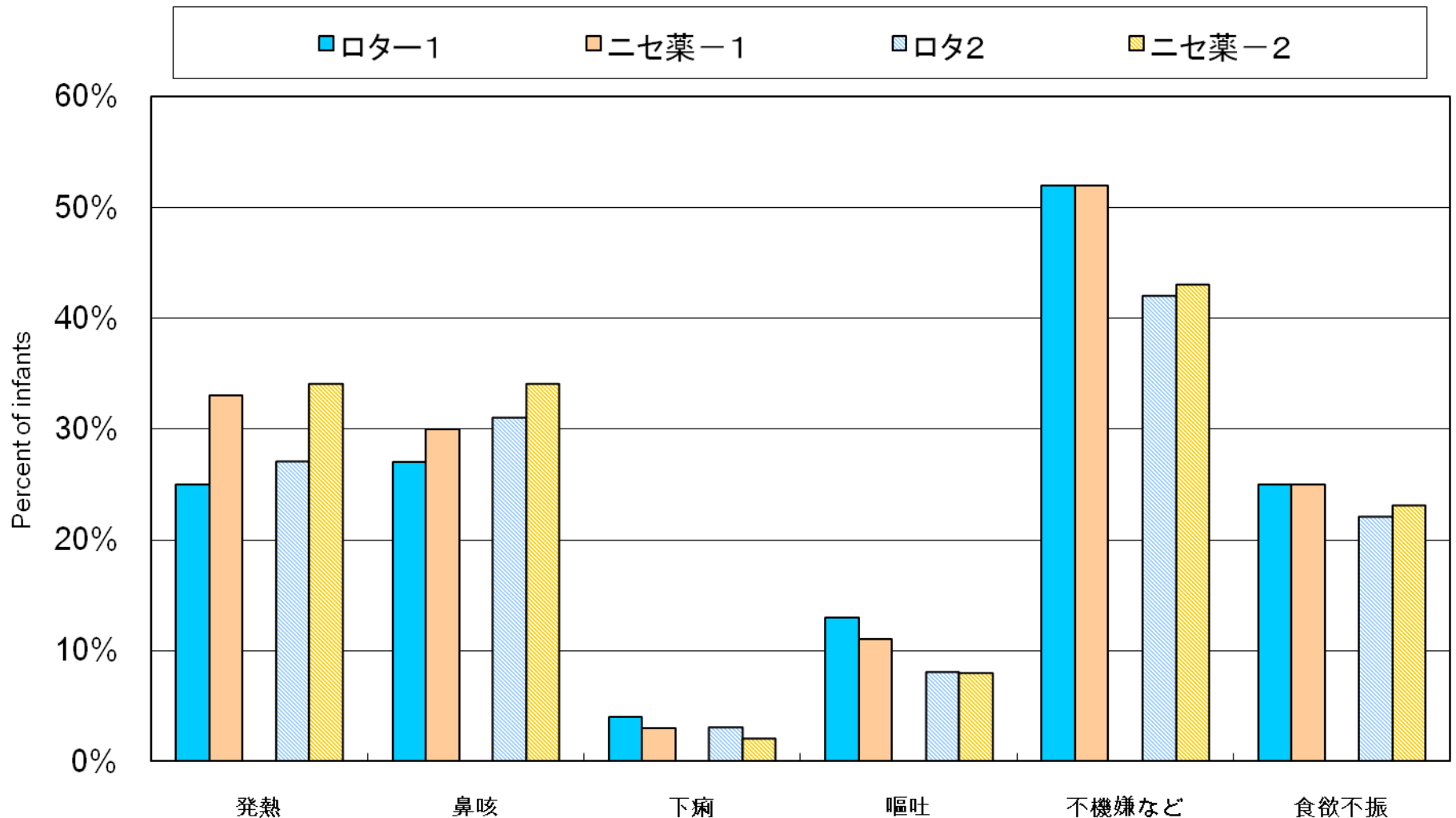
- 自然発生疫学調査やプラセボ(偽薬)との比較調査で、ワクチン接種群に優位に多い
- 接種群だけにみられる
- 接種のたびに同じことが再現する
- 起こった事象(発症時期、症状、検査値など)に一定の傾向があり、医学的に説明可能
- 通常無菌の部分からワクチン病原体を検出
- これらの条件を備える事象は少ないのです

“副作用”の実態

- すべてのワクチンに共通成分はありません
- 脳炎などの疫学調査を行うとワクチン接種後脳炎の発生率(リサーチセンターの予防接種必携)は自然の脳炎発生率よりも低いのです
- WHOも、旧型日本脳炎ワクチンとアデム発生には関係がないと2006年に発表しています
- 積極的にウイルス分離などを行うとワクチン株以外のウイルスが見つかることも多いのです
- プラセボ(偽薬)との比較調査ではよりはっきりとワクチンの安全性がわかります

経口ロタウイルスワクチンの有害事象

左側(青)がワクチン、右側(茶)がプラセボ(偽薬)



Placebo: ワクチン からウイルスを除いた成分

Source from ACIP 2008 (www.fda.gov/ohrms/dockets/ac/08/slides/2008-4348S1-2.ppt#75)

世界で認められたワクチンの冤罪

- 乳幼児突然死症候群 (SIDS)、喘息、自閉症 (チメロサル関係を含む)、子どもの免疫システムの障害、自己免疫疾患、I 型糖尿病、多発性硬化症、炎症性腸疾患、関節炎等がワクチンが原因として提起されて、大きく取り上げられてきました
- しかし、これら総てはその後の多くのしっかりした大規模研究で否定されているのです
(文献: Do vaccines cause that? !)

現在のワクチンで認められる 真の副作用

- 局所症状と軽度～中等度(稀)の事象
- 重い真の副作用とすると、大変稀ですが以下のものなどがあげられます
 - アナフィラキシーショック
 - 免疫不全患者での生ワクチン病原体の発症☆
 - 経口ポリオ生ワクチンによる麻痺
 - (☆先天性重症複合型免疫不全は簡易な方法で早期診断が可能:防衛医大小児科野々山教授)

予防接種事故の問題

- 原因は何であれ、不幸なことです
- しかし世界中で現在の科学の目で見直しますと、アナフィラキシーショックや免疫不全者など以外の重大事故は、「紛れ込み事故」の可能性が高いと考えられるようになってきました
- ただし、科学的判定と補償制度は、現時点ではあくまでも別に考える必要があります

無過失補償制度と免責制度の 導入が必須

- 日本の予防接種事故裁判において、多くは弱者救済を目的として判決が出ていますが、誰かの過失が必要な過失補償制度ですので、多くの冤罪を生み出してきたと考えられます
- 原告救済の判決が出れば、「国(大臣)に過失あり」となりますので、「過失」を避けるために、国は新たな予防接種行政を行わなくなります
- その結果、必要な予防接種を受けられない子どもたちが犠牲になってきました

国民すべてが責任を共有する 体制の導入

- 国だけが責任を負うのではなく、国民総てが責任を共有する体制導入も必須です
- その一環として関係多分野の専門家を集めた日本版のACIPの設立は急務です
- 世界中で、この予防接種事故の補償問題で悩んでおります
- 子どもと国民をVPDから守ることを目的として、現在の科学の最新知見も取り入れた総合的な調整が必要です

VPDから皆を守ろう

- VPDは軽い病気ではなく、いくら医学が進歩しても、VPDに罹ってからでは良い治療法はありませんので、ワクチンで防ぐべき病気です
- 低開発国も含めて、ワクチンほど世界中で多く使用されているものではなく、安全性もきわめて細かく調査されているのです
- ワクチンの接種は、メリットがデメリットを遙かに上回りますので、ワクチンを推進してVPDから子どもや国民を守りましょう

私たちと一緒に、伝えていきませんか

この会は、毎日子どもの健康と向き合っている現場の小児科医が中心になって活動しています。

VPDに感染して重症化した子どもの姿を目にするのは、家族だけでなく、医療関係者にとっても大変つらいことです。

社会や教育現場で命の尊さが訴えられる一方で、VPDに関する情報はほとんど伝えられることなく、子どもたちの大切な命が脅かされています。

かけがえのない子どもの命を守るために

私たちは、多くの方にVPDやワクチンについて、知ってもらうことから始めたいと考えています。

合併症や後遺症で苦しむ子どもが一人でも減るように、私たちと一緒に会の活動に参加しませんか。

たとえ、VPDの重大さとワクチンの大切さを伝えたいと思っても、正しい情報がなければ、伝えることは難しいでしょう。会では、リーフレットの制作・提供やホームページでの情報発信などを通して、活動に参加してくださる全国の医療関係者のみなさまをバックアップしていきます。

VPDを知る。
そして、VPDの被害をなくすために。



KNOW*VPD! WEBサイトのご案内



ホームページでは、VPDとワクチンに関するさらに詳しい情報やニュースを提供しています。ぜひアクセスしてください。

<http://www.know-vpd.jp/>

「VPD(ワクチンで防げる病気)を知って、子どもを守ろう。」の会

概要

設立	2008年4月
運営委員	代表 藤部友良(日本赤十字社医療センター小児科 顧問) 小児科医を中心に運営
活動内容	情報提供・啓発活動 主に保護者、医療関係者(医師・看護師・保健師・助産師など)、保育・教育関係者に対し、情報提供・啓発を目的とした各種活動を実施
	主な活動
	・ポスター・リーフレット、小冊子などの作成・配布 ・ホームページの運営 ・一般向け講演会・イベントなどの開催 ・医療・保育・教育関係者向けセミナーなどの開催 ・メディア啓発 など
	情報提供内容
	・子どものVPD、感染症に関する情報 ・予防接種に関する情報 ・諸外国の感染症対策情報 など
	調査研究(アンケートなどの実施) ネットワークの形成 運営

会員募集

当会へのサポート・会員を求めています!

当会は、会の趣旨にご賛同いただける医学・医療・保健・福祉・教育及びその他関連領域の会員により構成されます。

会員特典 啓発資料(ポスター、リーフレット、小冊子)の無料提供
ニュースレター(年3回)、会員専用メールマガジンの参加
当会サイト内「エリア別会員名簿」の掲載
各種セミナー・イベントの案内、優先権(正会員のみ) など

会員区分 **正会員** 入会金 / 50,000円 年会費 / 10,000円
賛助会員 入会金 / 5,000円 年会費 / 5,000円

※法人については事務局にお問い合わせください。

事務局

〒104-0045 東京都中央区築地1-9-4 ちとせビル
「VPD(ワクチンで防げる病気)を知って、子どもを守ろう。」の会
問い合わせ先 / info@know-vpd.jp

2010年2月改訂

医療関係者のみなさまへ



「VPD(ワクチンで防げる病気)を知って、子どもを守ろう。」の会 会のご案内



KNOW*VPD!
VPDを知って、子どもを守ろう。
<http://www.know-vpd.jp/>

VPDとは?

VPDとは、「ワクチンで防げる病気」のこと。
"Vaccine Preventable Diseases"の略です。

VPDとは 「ワクチンで防げる病気」 のことです

VPD = "Vaccine Preventable Diseases"

VPDは、世界中に数多くある感染症の中で、数少ない予防可能な病気です。しかし、欧米などにくらべて日本では、現在も大変多くの子どもたちがワクチンを接種しなかったために、VPDに感染して深刻な後遺症に苦しんだり、命を落としたりしています。

一方で、保護者がVPDやワクチンについて真剣に考えたり学んだりする機会は、ほとんどありません。疑問や不安があってもどうしたらいいかわからない保護者もいます。

子どもの健康と命を守るために VPDについて 伝えていきませんか

ママやパパはこんな疑問をもっています。

- 「ワクチンは副作用があるから、接種しない方が安全？」
- 「任意接種は受けなくてもいいの？」
- 「ワクチンで人工的に免疫をつけるより、自然に感染した方がいいのでは？」

VPDについて正しい情報を知ることが、子どもの健康を守る第一歩です。

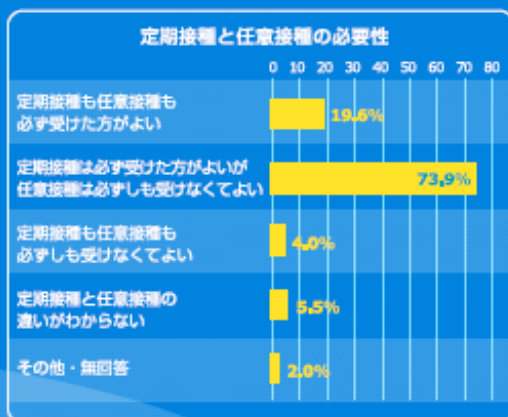
背景にある情報不足

日本ではVPDやワクチンに関する誤解が少なくありません。その原因の一つに、情報不足があげられます。インフルエンザや麻疹の流行は、社会問題としてメディアに取り上げられますが、一般生活者がそれ以外の情報にふれる機会はほとんどありません。特に任意接種に関する情報は充分とは言えないでしょう。

また、医師や保健師、助産師などの医療関係者についても同様です。保護者からワクチンについての相談を受ける保健師でも、約60%が感染症や予防接種関連の情報収集状況に満足していないと答えています。(2007年当会調査)

接種率が低い任意接種ワクチン

当会調査では約74%の保護者が「任意接種は必ずしも受けなくてよい」と答えています。定期接種と同様に任意接種も必要だという認識は低く、理解不足が接種率の低さの背景にあると考えられます。



(調査対象：1才未満の子どもを持つ母親 200人)

予防できる病気は予防する

任意接種のVPDや、日本ではまだワクチンが導入されていないVPDでも、重症化すると深刻な後遺症を残したり命を落としたりする例があります。軽い病気とみられがちなおたふくかぜでも、脳障害や高度の難聴の後遺症を残すケースが少なくありません。

「VPD(ワクチンで防げる病気)は予防する」—これはすべての子どもたちにとって当然の権利です。

日本ではワクチンの恩恵が 充分受けられない！？

経済大国といわれる日本ですが、子どもたちはワクチンに関して十分な恩恵を受けているとはいえません。欧米などの国では定期接種のおたふくかぜやみずぼうそうは、日本では任意接種です。WHOがすべての国に対して定期接種化を推奨しているヒブや小児用肺炎球菌のワクチンについては、やっと任意接種で受けられるようになったところです。米国では保育所や小学校などの集団生活に入る前に接種が義務づけられている基本のワクチンですが、日本ではまだまだこれから。VPDであるという認識も、十分に浸透していません。

日本で任意接種の子どものワクチンの例

- ・B型肝炎
- ・ヒブ(2008年12月発売)
- ・小児用肺炎球菌(2010年2月発売)
※成人用肺炎球菌ワクチンとは別
- ・みずぼうそう
- ・おたふくかぜ
- ・子宮頸がん
(2009年12月発売)

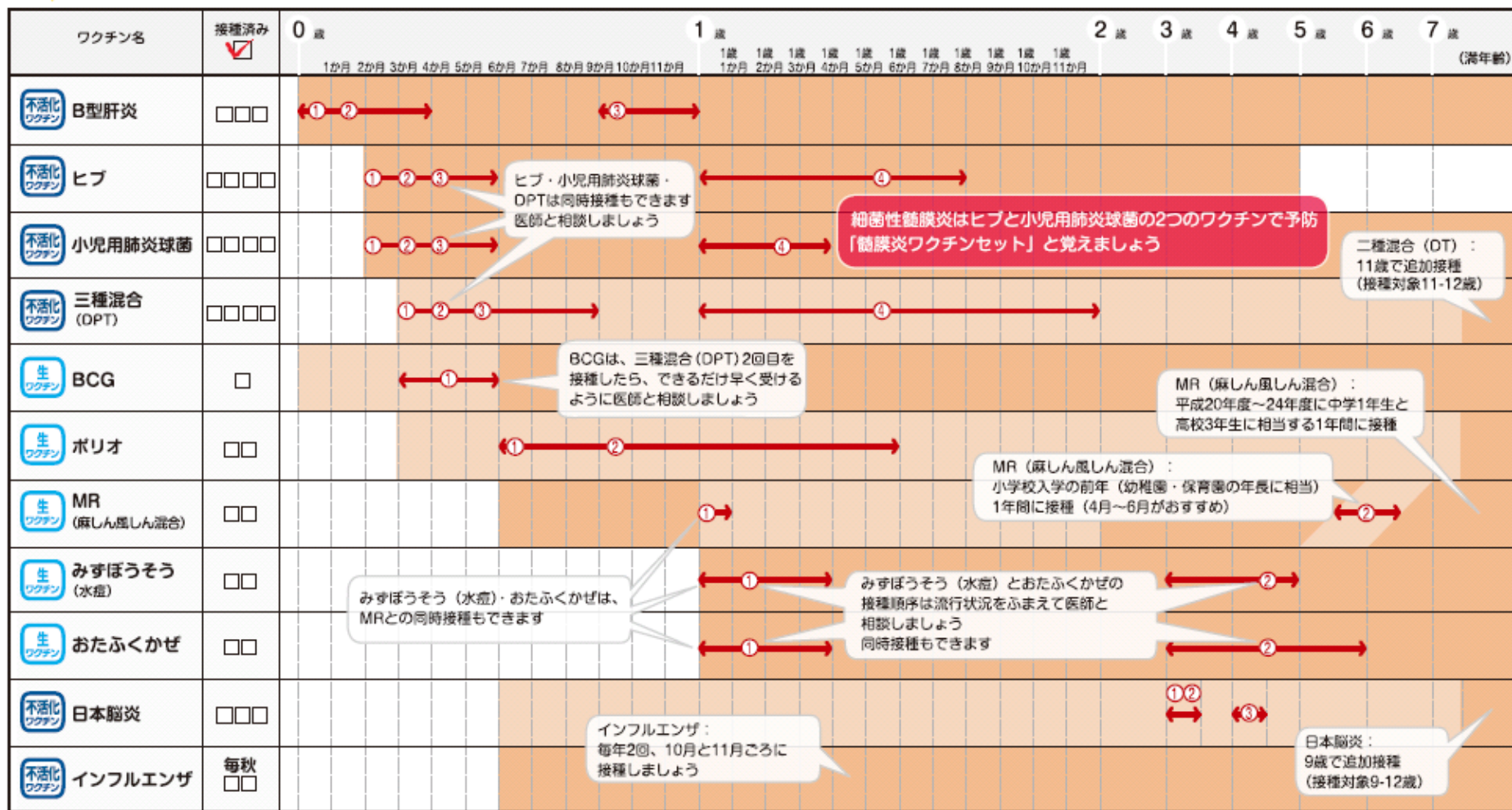
日本で導入されていない子どものワクチンの例

- ・ロタウイルス
- ・不活化ポリオ
- ・A型肝炎

(2010年2月現在)

予防接種スケジュール

大切な子どもをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れず予防接種を受けることが重要です。このスケジュールは「VPDを知って、子どもを守ろう。」の会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。お子さまの予防接種に関しては、地域ごとの接種方法やVPDの流行状況に応じて、かかりつけ医とご相談のうえスケジュールを立てましょう。



不活化ワクチン 生ワクチン 定期予防接種の対象年齢 任意接種の接種できる年齢 おすすめの接種時期(数字は接種回数)

※定期接種：定められた期間内であれば公費(無料)で受けられる予防接種。任意接種：ほとんどの場合、全額自己負担(有料)で受ける予防接種。